

告155
(告154の反訳)

野村：あれ転売の話どうなったのか、

朝倉：転売・・・？

野村：転売したいって話はね、もう2年も前にね。意思表示はされたんですよ。転売したいんだと。

朝倉：あの転売されてないので。あの同じ、JRT・・・

野村：何もあなたは聞いてませんか？転売したいんだって話。意思表示はあったんですよ。転売したいんだと。

朝倉：意思表示があったとしても、現在転売されておられません。

野村：聞いているのは、あなたをご存知ないんです？そういう話があったかなかったか。

朝倉：（無言）

野村：知ってますね、あなた。なんか聞いてますね。転売のね、意思表示があったことを、あなたは、JRTからね、話し聞いてますね。たぶんね。いまの（不明）からすると。

朝倉：転売の意思表示はあったんですか？

野村：転売の意思表示は記録に残ってるんです。もう何年も前にね、転売したいんだって話があったってことはね。あなたは、その当時、あなたがいらっしやっただとかわかりませんがね。自分ごととしてね、あなたが例えばね、この1年間、2年間でね、そういう話が今ちょっと進捗中だとか、来年契約なんだ、とかね。そういうところまで進んでます？そこまで進んでなかったとしてもね、何らかのね転売のね、話を聞いてます？

朝倉：転売の・・・。現在は転売されてないけど、転売の話しがあったっていうことですか？

野村：いや、これ情報公開と全く関係のない取材ですよ。ね、取材です。僕が言ってる通りね。たぶん彼らもそれを最初から決めてて、そういうふうに進めようとしている。どう見てもね。どう見ても。やってる内容とかね、いろんな

告155
(告154の反訳)

申請の出し方とかね、見ててもね。僕よく知ってるから、そういうところに努めたことあるし、不動産のね、転売の会社とかいたことあるし。

朝倉：あ、そう・・・

野村：そうなるよ。まずはね、これをね、さっき言ってる通りね、今はまだ縛りがあるから。これ1回売っちゃえばね、縛りがなくなるんだよ。ね、それを、あなた方は、認めるんですか？ 転売の意思表示があったら。

朝倉：仮定の話には、ちょっと答えられません。あの、ね、その、今すぐ答えるっていても、転売、まだ、されたという事実はないので。

野村：僕は取材ですよ。でもね、あなた方はね・・・

朝倉：いえ、仮定の話したには答えられません。

野村：家庭、家庭の話しに答えられないって、当たり前聞こえるけどね、いま現在、進行中のことなんですよ。

朝倉：進行中の、何をもって進行しますか？逆に。

野村：転売したいって意思表示があったわけですから。

朝倉：いつですか。もし転売したんだったら、いま何か分かるけど、いつの話ですかこれ。逆に。

野村：2018年の9月5日。

朝倉：2018年、だいぶ前の話じゃないですか。いま2022年ですよ。

野村：でも現在進行中なんです。

朝倉：なんで進行している（不明）

野村：既に意思表示はされてるから。

朝倉：いや、（不明）だって、そんな、転売の話し、話しは・・・

野村：証拠があるんです。

朝倉：転売は（不明）

普通に喋りましょう。ね、声を荒げないで。証拠はあるんです。転売をしたいという意思表示があつてね、それがあなた方、森林室に伝わってるっていうね。2018年9月2日にね、そういう記録があるんです。つまり、この転売ってのは、現在進行形の話になってるんですよ。それに対してね、それに対して、あなたが「仮定のことは答えられない」というのはね、回答がおかしい。

朝倉：進行形じゃないと思いますよ。

野村：転売の意思表示があつたんですよ。

朝倉：意思表示があつたということは、何か申請したんですか？

野村：意思表示があつたんです。それ以上でも、それ以下でもありません。

朝倉：意思表示だけで物事を進むんですか？逆に。

野村：意思表示がスタートじゃないですか？ 仮定の話ではないですよ。少なくとも。

朝倉：現在それをしてらきつと

野村：あのね、仮定の話ではないでしょう。

朝倉：仮定・・・転売されたっていうのは仮定の話ですね。

野村：違う。仮定じゃなくてね、僕は「現在進行中」「進行形」だと言った。あなたは「仮定の話だから答えられない」と言った。証拠を出せというからね、2018年の9月5日にね。記録が残ってます、誰が、誰が同席してどういう話があつたってことは、議事録に残っています。あなた方の。

野村：2018年、でも2010見ていただければ。契約更新してますね。

野村：そんなのどうでもいい。ね。

告155
(告154の反訳)

野村：どうでもいいってことないんじゃないですか。

野村：いや、どうでの、どうでもいいことでね、話をね、長引かせたくないから。ピンポイントで話をしたいから、僕言ってるのはね。あなたは「答えられない」と言ってるけれどもね。でもね、これは仮定の話ではないんです。仮定の話じゃなくてね・・・

野村：2018年に転売の話して、おっしゃいますよね。

野村：「転売」って言葉じゃない。言葉がね、「譲渡」したいと。

野村：譲渡・・・

野村：JRTは「譲渡したい」という話しを出してます。あなた方に、森林室に。あなたは知ってるよ、たぶん。と今の（不明）でね、もう推測つくもん。

野村：いや、あの・・・

野村：あなた知ってるよ、この話し、今は進行してるよ。（あなたは）「言わない」と言ってるけどね。

朝倉：進行（不明）・・・あの、いま、契約・・・現在・・・JRTですから。

野村：いや、でもね、あなたは知ってるよ。知っているでしょ。そういう話があることをね。だからね、「仮定の話は言えない」という言い方になるんですよ。知ってるよ、あなたは。そうでしょ？

朝倉：これは今ここで答える必要があるんですか？

野村：仮定の話じゃないよ。もう既に進行中でね、進行中で進んでいる話ですよ。それは誰が見てもね、僕がね、今ね、まとめる証拠の中でもね、ちょっとね、フェアではない。やり方が、どう見ても。記録の残した方にしろ、蘭越町のやり方にしてもね、ものすごくおかしなことをやってる。便宜が図られ過ぎ。記録を残さなすぎ。蘭越町とね、北海道でね、残ってる文章がね、相違があり過ぎる。あなたは知ってるよ。

朝倉：蘭越町がどこまで残しているかは、承知しておりませんが、我々はこちらにやはり・・・（不明）・・・

告155
(告154の反訳)

野村：これ、はっきりしましょうよ。あなた知っているでしょ？ 転売の話、進んでること。

朝倉：転売が進んでる・・・

野村：転売の話し、あなたも参加して知っているでしょう？

朝倉：転売の話し・・・

野村：出てるでしょ？ 転売の話が。

朝倉：いいえ、知りません。

野村：本当ですか、後でばれますよ。

朝倉：（不明）